

2024年度 第2回 愛知県・市町村人口問題対策検討会議 議事録

日時：2025年3月28日（金）

14時00分から15時15分まで

場所：愛知県庁本庁舎2階 講堂

<知事開会挨拶>

皆さんこんにちは。

本日は、2024年度第2回愛知県・市町村人口問題対策検討会議を開催させていただきました。年度末の大変お忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。

先ほど、みよし市で水素の推進協議会をやりました。同じメンバーの方が、またこちらに来ていただいているということで、本当は日を分けるといいですが、年度末で集中しますのと、皆様も議会があつて、予算があつて、人事があつてと、なかなか日を分けて取れないこともありますので、今日は2階建て・3階建てになろうかと思いますが、よろしくお願いします。

愛知県の人口は、日本人だけの人口だと2016年にピークアウトしていたということですが、全体では2019年をピークに、コロナで外国人の方が3年ほど来れなくなったことなどもあり、2020年から5年連続で減少しています。また、直近1年間では43の市町村が人口減となるなど人口問題は県全体に関わる重要な問題となっております。昨年5月に立ち上げたこの会議では、市町村の皆さまからご要望の多かった「農林水産業の振興」、「地域交通の確保」、「空き家の活用」の3つを当面の検討課題として、議題ごとにワーキンググループを立ち上げて市町村の皆様と具体的な施策を検討してきました。県としてはこのワーキンググループでの検討結果を踏まえ、来年度、「農林水産業の振興」では新規参入のための就業支援プラットフォームの整備、「地域交通の確保」では交通空白地の解消や地域の移動手段の最適化に向けた公共ライドシェアの導入支援、「空き家の活用」では空き家と移住希望者の広域マッチング支援、といった新規施策に取り組むこととしております。

本日の会議では、こうした新規施策の他、拡充・継続する県の施策や市町村独自の取組などを皆様と共有するとともに、新たな検討課題の設定などについて率直に意見交換したいと考えています。

県としては、今後とも、本日ご参加の市町村の皆様と連携・協力して人口問題対策に待ったなしで取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

<知事>

それでは議題に入ります。

「各ワーキンググループの2024年度活動報告及び2025年度の取組について」、「新たな検討議題の設定及びワーキンググループの設置について」、事務局から一括して説明をいたします。

[事務局から資料説明]

<知事>

いま報告がありましたが、今年度行ってきた3つのワーキンググループ、「農林水産業の振興」、「地域交通の確保」、「空き家の活用」につきましては、引き続き来年度も活動을続けてまいりますので、よろしくお願いします。

そして、皆様にヒアリングをしたところ、「地域産業の振興」を課題として取り上げて、検討を進めていくべき、という声がたくさんありましたので、4つ目のワーキンググループを立ち上げていきたいと思っております。市町村の皆様にはこれまでの3つと同様に引き続き率直なご意見をいただき、具体的な施策を検討し、取り組んでいきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

以上、報告と新年度の方針を申し上げました。

続いて、意見交換に入ります。本日まで出席の市町村の委員の皆様から順にご発言をお願いします。その後、オブザーバーの皆様からもご発言をいただきたいと思います。時間に限りがありますので、目安としてお一人当たり2分くらいでお願いしたいと思います。まず、岡崎市の内田市長さんからお願いします。

<岡崎市>

岡崎市であります。

本日は、このような機会をいただきまして、ありがとうございます。2点お話をさせていただきます。

1点は、市街化調整区域における法規制の問題であります。本市では、令和6年4月から市街化調整区域の既存集落の維持を目的とした制度を開始しております。これは地域の実情を踏まえ、住み慣れた地域に住み続けることができるよう、土地利用の制度の見直しを図っているもので、市独自の取組としてできることは限がありますので、ワーキンググループにおいて検討していただいたことに非常に感謝しております。定住促進と土地の利用規制は、政策に相反するところがありますので、引き続き同じ悩みを抱えている自治体の皆さまと解決の糸口を探っていきたいと考えております。

2点目は、額田地区の交流人口の拡大についてであります。本市の中山間地域である額田地域は豊かな環境が魅力です。これを活かし、観光資源や新産業の開発などを通じて、より多くの人々に訪れていただけるような取組を進めております。交流人口が増えることによって地域の活性化や経済効果が期待でき、ひいては定住人口の増加にも寄与するものと考えております。さらに今年の秋には、本県で初めてとなるアウトレットの開業を控えており、非常に期待しているところですが、立地についてはちょうど中山間地域の玄関口に位置します。こういった動きと連携して、本市の地域面積の60%を占める中山間地域に民活による家族で一日遊べて飲食も楽しめるレジャー施設の誘致を考えております。都市住民と中山間地域の距離を短くして、若い世代や

ファミリー層にとって中山間地域が日常的な楽しみの場となるような魅力づくりを進め、交流人口の創出、移住促進などによりまして、中山間地域の活性化に繋がるように取り組んでまいります。

人口減少下にあっても、楽しみや魅力、活気のある、夢のある取組をしっかりと展開していきたいと考えております。

＜豊田市＞

皆様こんにちは。豊田市でございます。本日は市長の太田に代わりまして、副市長の辻と申します。代理で出席しております。よろしくお願いいたします。

それでは、豊田市の令和7年度の取組についてご紹介させていただきます。

まず、山村地域の関係では、山村地域は非常に人口減少も進み、地域の力がかなり疲弊をしているところですが、そうした中でも持続可能な地域運営や、集落機能を維持するために、移住・定住の取組、都市との交流や関係人口を増加させるということで、これまでも庁内のプロジェクトチームで取組を進めてきましたが、さらにより強固に総合的な施策を加速させていくため、令和7年度から「総合山村室」を新たに創設し、山村地域の持続可能な暮らしの仕組づくりをより一層推進する取組を進めることとしています。合わせて、地域づくりをさらに地域の皆さんと共働で進めるために、各地区にある支所の権限をより強化し、それとともに「地域づくり振興基金」を積み増しをして、より機動的に事業が進められるよう、地域の特性を生かした取組を進めていこうということでございます。

また、先ほど新たに地域産業の振興というワーキングを作られるという話がありましたけれども、産業に関しては、これは山村地域に限りませんけれども、人手の確保がどの分野でも、山村地域は特にそうですが、非常に深刻であるということで、これも組織を見直し、新たに「産業人材活躍課」を新設し、事業者の人材確保、様々な人が活用できるような新たな取組をしてまいりたいということで、多様な働き方の実現を柱に取組を推進していくことを考えております。

さらには、山村地域における買い物支援策ということで、移動販売など、実施事業者への支援を継続するとともに、新たに買い物困難者に対する支援を検討する場として、事業者の皆さん、福祉関係の皆さん、庁内の関係課を集めて、対策協議会を立ち上げて、取組を進めていきます。

＜西尾市＞

西尾市です。よろしくお願いいたします。

ワーキングのテーマに沿って、2点ほど西尾市の取組の中で人口減少対策という点で一定の手応えを感じている施策について紹介させていただきます。

1点目が、いちじくスクールとか、いちごスクールというもので、これ自体はJAさんの事業で市は金銭的な補助をしているわけでありましてけれども、いちじくやいちごの新規就

農者に対して、市内の生産者の方々がノウハウを惜しみなく提供して1年間かけて教えていくような事業でありまして、年間で受講する方は10人満たないくらいですが、実は県外からも半分以上受講者がいて、そのまま西尾市に就農するというケースが非常に多いので、「何ですか」と聞くと、手厚い支援の部分に魅力を感じて、わざわざ県外から受けましたという方がいらっしゃるので、生産者の方が立ち上がってやるということによって一定の効果があるということを感じています。

2点目が空き家の関係で、空き家バンクになるんですけれども、仕事とか結婚とかではなくて、西尾市のロケーションだとか環境だとかに魅力を感じて移住したいという方に話を聞くと中古物件にそのまま住むとか、自分でリノベーションして住むという意向の人が結構多いが、物件の情報があまりないということをよく言われて、それなので不動産屋に一般に流通しているものではない形での流通が必要で、市で空き家バンクは持っているが、空き家になる物件は民だし、空き家バンクの管理も民間に任せているので、民-民ということで、正直行政で手を入れてなかったんですけれども、そうすると空き家バンクの仕組みは作ったけれども、物件の登録数が増えないという状況になってしまっているんで、来年度から力を入れていこうと思っています。先進的な取組など見てみると空き家バンクの実効性を担保することによって、一定の定住促進に繋がっているところはあると思うので、仕組みを作ることが目的ではなくて、いかに機能させるかということをしっかり考えて取り組んでいきたいなと思っています。

<新城市>

新城市です。よろしくお願いします。

まず、この愛知県・市町村人口問題対策検討会議が、次年度も地域産業振興のワーキンググループを加えて継続いただけることに感謝を申し上げます。

わたしからは報告にもありました、ワーキングの一つである空き家の活用についてところで1点申し上げたいと思います。新城市は3つの市町村が合併して一つになったんですけれども、その中の旧新城市におきましては、面積の90%以上が市街化調整区域でありまして、第1回目の会議でもその規制の緩和の必要性を話させていただきました。いま新城市では、空き家等対策計画の改定をしているタイミングで、このタイミングで空き家活用促進区域の設定をしたいと思っています。

その上で、市街化調整区域の規制の中で、空き家になっている既存宅を店舗又は事務所の用途として賃貸で活用することができないという規制があります。調整区域は広いものですから、その中のある程度限定したゾーニングをして、そこに空き家活用促進区域を設定していけるように、この賃貸で活用できないという規制を緩和していただけると、店舗、カフェ、飲食店といったニーズはあると思いますので、活用の幅が広がると考えております。今後、検証の上、ご考慮いただきたいと思います。

<田原市>

田原市長の山下でございます。

昨年5月にこの検討会議が立ち上がった際にもお話しましたが、抜本的な少子化対策をするためには、やはり結婚、そして出産に直接手立てをする必要があるのではないということから、田原市では令和6年度途中からですが、結婚支援センターの運営を民間機関に委託しまして、婚活事業の企画・運営をお願いしております。内容的にはカウンセリングやイベントの他に、世話をやくカウンセラーの常設、それから直接カップルを引き合わせる、こういったことなど一步踏み込んだ結婚支援策を実施しております。まだ始まったばかりですけども非常に好感触を得ております。令和7年度も引き続きこの事業を推進し、結婚・出産に結びつくように進めてまいりたいと思っております。それが人口増に繋がるよう、頑張っていきたいなと思っております。

<愛西市>

愛西市です。

本市の特色としまして、市街化区域が市全体で4.7%程度しかなく、市街化区域が限られているということでございます。こういった問題を解決するため、現在、鉄道駅周辺にある市街地の近郊について、市街化区域への編入を見据えた市街地整備の取組を始めさせていただいているところでありまして、現在、優先的に進める拠点のまちづくりビジョンの作成・検討を進めてまいりました。この事業につきましては、県の担当部局の知恵を借りながら実施しておりますので、引き続きご協力をいただきたいと思います。一方、市街化調整区域内の既存集落の維持が非常に大きな課題となっております。現在、空き家の状況の把握・分析を行っておりますけども、特徴としましては空き家の所有者が耕作放棄地を合わせて所有しているということでございます。ワーキンググループの中で、市街化調整区域での空き家等活用促進区域の設定について、地域の実情や課題を踏まえ検討されとお聞きしておりますので、市街化調整区域内の既存集落の維持に向け、現在策定中の空家等対策計画の中で効果的な施策検証を行うにあたりまして、県においても力添えをいただきたいと思います。

また、地域公共交通につきましても、無料の巡回バスが中心となっております。地域内の交通モード最適化を図るため、検討を進めております。これにつきましても、市の実情に合った施策を模索してまいりたいと思っております。是非、今後とも色々な面でご助言いただきたいと思います。

<南知多町>

南知多町です。

南知多町は昭和36年に町が生まれてから65年一貫して(人口の)グラフが下がっております。わたしが町長になってからもグラフがぐっと下がっておりまして、一生懸命人口減少ストップのための政策をしてきたわけですが、この度、県の皆様が寄り添っていただいたことに深く感謝申し上げます。この間ヒアリングいただいた中で、雇用を生む

企業の誘致・創出という項目がございます。地域産業の振興ということです。学校の統廃合を進めてまいりまして、空き家の中学校が3つ、小学校が2つございます。そこで、サウンディングを募集して、自由な発想で提案してくださいということをやるのですが、そこで工場や作業所をやろうとすると、3～4年は許可に時間がかかるんですね。4番目にできたワーキンググループで、是非、県と一緒にこの課題を、どうやったら有効に利用できるか、働く場所として学校が使えるか、役割が終わった公共施設を生かしていこうということに関して期待しているところでございます。来年楽しみにしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

<美浜町>

美浜町でございます。

わたしからは、農林水産業振興、地域交通確保、空き家活用についてお話させていただきます。まず、農林水産業振興につきましては、隣の武豊町と一緒に去る3月8日にオーガニックビレッジ宣言を出させていただきました。いわゆる従来型の土地利用型とか、農薬を使った観光農業というものもありますが、それに加える形でオーガニックということも推進していきたい、そうした方々は情熱を持って都会の方から越してこられてお住まいになってということで、いわゆる人口問題にも関係してくると思って期待をしております。地域交通確保につきましては、わたしどもの町を走っている知多新線が恒常的な、慢性的な赤字になっておりまして、最近報道されております西尾市さんと蒲郡市さんによる沿線の補助に対する確保、継続ですね、これは非常に危惧をしております。いずれわたしどもの町にも降りかかってくるのではないかと、財政の弱いわたしどもではあつたことはできないので、定例化しないことを望んでおります。空き家活用につきましては、来年度、アンケート調査を実施いたします。いまある空き家よりもこれから発生する空き家の方が、むしろ大きな問題であると考えておりまして、わたしどもの町では高齢化が進んでおりますが、歩いていきますと高齢者だけの家が非常に多い、75歳以上だけでお住まいになっている、これがあと10年するとほぼ空き家になっていく、次の方がいないものですから、そうすると空き家というのは誰が管理しているかというのを探すことが非常に大変なんですね。ですので、来年度、75歳以上の高齢者だけの家、あるいは一人暮らしの家には、全てアンケート調査をしまして、この家を将来どうするのですか、誰が管理するのですか、売りたいですか、貸したいですか、そうしたことをアンケートを取らせていただく、合わせて空き家のエンディングノートというのを配らせていただく。これによって全て解消はできないですけども、回収してデータベース化することによって将来的に発生する空き家に対して的確に対応できるようになるのではないかとことを期待しております。当然いまの空き家についてもやっていくのですが、大きな問題はこれから発生する空き家だというふうに考えております。

<設楽町>

設楽町長の土屋です。どうぞよろしくお願いいたします。

わたしも3つのテーマに沿ってお話させていただきます。まず、農林水産の部門についてです。林業分野では、森林環境譲与税を活用した人材育成の事業として、都市部で就業相談会が開催されますけども、そこに積極的に参加していきたいと思っていますところ。SNS広告などを活用して若い世代を中心とした関心層を呼び込む取組ですので、確保に期待しているところであります。また、森林組合以外に一定規模の作業を受けられる体力のある経営体がないということで恒常的な課題となっているところであります。そうした面での育成等の検証も進めていきたいと思っております。そして東三河の重点プロジェクトの中で、東三河森林ルネッサンスプロジェクトというものを挙げていただいております。その中で、愛知県教育委員会との連携協力によって、田口高校、林業科のある高校ですけども、この魅力化の推進に取り組んでいただいております。次世代の担い手の確保、地域の林業の振興というところで、大きな可能性がありますので、町としてもできる限りのご協力をしていきたいと思っております。農業分野では新たな特産品の開発に取り組んでおります。県が開発されたもち米で「やわ恋もち」というものがありますが、地域特性を生かして新たな商品展開を進めておりますけれども、この趣旨に賛同する若い担い手の目途が立ったことから、新たな事業者と行政、そして民間事業者が連携した開発プロジェクトの事業展開をしていこうと思っております。次に空き家ですけども、愛知県下ではまだ設楽町だけだと思いますが、国の制度を活用した特定地域づくり事業協同組合という制度で、マルチワーカーの方を派遣するような事業をやっております。都市部の方で興味を持って、お問い合わせをいただきますが、ここで一番大きな課題になるのが、住むところです。わたしどもも空き家の改修補助をやっておりますが、来年度、県の方でも少し考えていただけるということで大きな期待をしております。そして公共交通ですけども、北設3町村は人口が極めて少ない割には、移動距離が大きい地域でありますので、3町村とも負担がかなり大きくなっております。過疎バスの補助金という制度もあるんですが、この運用について少し話を聞いていただく機会を作っていただきたいと思いますと思っております。

<東栄町>

東栄町でございます。よろしくお願いいたします。

わたしから特に空き家対策であります。現在、空き家の更なる活用に向けまして町内にひとつあります不動産事業者と密に連携を取って、空き家の登録からマッチングまで一貫してスムーズに進められる体制をとっているところでございます。そういった中で、アンケートにもありますように、子どもにとって豊かな教育と生活環境を求める意見が大変多いわけですが、義務教育までの状況は北設の地域も何とかなるわけですが、高校、大学という時に地元から離れてしまうという状況にありますので、今後、その状況も踏まえながら施策を進めてまいりたいと思います。それから、いま設楽町長から言われましたが、公共交通であります。現在、北設3町村で「おでかけ北設」の

中で共同運営を行っておりますが、運営方式は直営だったり、地元の事業者へ委託といった状況で運営方法が違いますが、今後、高校の通学を含めながら運営形態も一緒になった進め方をしていきたいと考えております。新城市さんも含めながら、公共交通については、しっかり進めてまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

＜豊根村＞

豊根村でございます。

まず、豊根村の人口減少の現状について述べさせていただきます。この2月末の人口が926人ということで愛知県で当然一番少ないわけでございますが、10年前が1,221人ということで、10年間で295名が減少しております。率で言いますと24.2%減少したということで、年に換算すると毎年2～3%の人口が減っております。大体30人前後が減少しておりますけれども、多くは自然減ということでございます。豊根村の高齢化率は51.5%ということで、65歳以上の人口が半分を占めておりますので、この先30年くらいは自然減が高い比率で続いていくことはどうしようもないことだと思っております。問題は次の世代ですね、20代、30代をいかに増やすかということでございまして、豊根村では20代、30代の子育て世代の支援を充実させていくことを考えておりまして、それで若い世代の転入を促していきたいと思っております。合わせて、地域おこし協力隊でありますとか、緑のふるさと協力隊の受入れを積極的に進めているところでございます。定着率が3割台ということで、低いことは低いのですが、3人に1人は定住していただけるということで、引き続き受け入れを推進していきたいと思っております。

＜安城市＞

安城市長の三星でございます。オブザーバーとして出席させていただいております。

安城市も人口がどうとう減少ということで、続いております。ですので、会員の市町村の皆様方の取組を参考にさせていただきたいと思っております。安城市の減少の原因というのは、自然減です。それから社会的にも、特に若い人達の転出超過が目立つということでありますので、若い人達、特に女性をいかに定着させるか、そこに腐心をしているところであります。若い女性に定着していただくためには、地元で女性にとって魅力的な仕事がなければ非常に厳しいと思っております。ですので、安城市も含めて西三河、さらに愛知県全体がものづくり産業の地域と言われておりまして、そういうイメージが定着しておりますけれども、ものづくり産業であっても女性にとって魅力的な仕事はありますよ、やりがいがありますよ、というところをもっともっと発信していきたいと思っております。合わせて若い世代の方々が安心して結婚し、子どもを生み、育てることのできる仕組みづくりの構築を進めているところでございます。引き続き皆様方のご指導よろしくお願いいたします。

＜弥富市＞

弥富市でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

弥富市は愛知県下の市の中で一番人口が少ない市でございます、43,500人ほどでございます。年間0.6%くらいの人口減があるわけでございます、そのような中、令和7年4月1日からは、中学校が一つ減ります。この3月末をもって中学校が1校閉校して2校になります。また、令和10年3月31日には小学校3校を閉校しまして、8校ある小学校が5校になるということでございまして、そのような中、4校を一つにした小学校を新たに新築し、子ども達を迎え入れるわけでございますが、弥富市は南北に大変長い地域でございます。南北16kmある地域でございます、なるべく中心に近いところに小学校をつくるわけですが、どうしても片道が最高で10kmくらいのところがでてしまうということでスクールバスを子ども達には安全・安心のためにも用意しなければならない状況があるわけで、そのバスも1台当たり年間1,000万円ほどかかってしまうわけでございます、国の交付税措置では1台当たり600万ということで、ちょっとなかなか財政負担も厳しい状況があるわけでございます。そうした中で、12台、13台といったスクールバスを計画しているわけですが、大変厳しい状況があるということをご承知いただきたいと思います。また、小学校3校、中学校1校の跡地利用の話が大きく出てきているところでございます。先ほど、南知多町長が言われましたが、全域が調整区域の学校の跡地利用は大変ハードルが高い、賑わい創出が難しい場所でございます。地域のコミュニティもなかなか難しい状況がある中で、賑わい創出が図れたらということで知恵を絞っているところであり、ワーキンググループでもお力添えをいただければと思う次第でございます。もう一つ公共交通です。弥富市3ブロックに分けまして、コミュニティバスを運行しているのですが、令和7年10月からは大きく見直しまして、3ブロックの公共交通のバスを2ブロックのルートを簡素化しまして、残りの補完する部分はデマンド型の乗合バスを導入していこうということで1年間の社会実験をやらせていただきます。高齢化率もどんどん上がっていく中で、免許返納される方も大変多くなってまいりました。そういった方々が少しでも多く出かけていただけるように、健康であっていただけるようにということで計画しているところでございます。また、色々なお知恵を拝借したいと思っております。

＜みよし市＞

みよし市でございます。

まずもって、各ワーキンググループの皆様方からのわたし達にとっても大変参考となる提案を共有いただきましたことに感謝を申し上げたいと思います。それぞれいただいた課題につきましては、各市町村の皆さんがやっていただくとともに、これは県全体として県全体の底上げをしていくことがとても大事なことでありますので、先ほど知事からも色んな施策を新たに実証いただけるという話もありましたので、そうした中で県全体で高まっていくことを期待申し上げたいと思います。わたし達が最近感じているこ

とということで少しお話させていただきます。先ほど山下市長さんからも人口の抜本的な対策を、というお話がありましたが、人口問題を人口減少の観点から申し上げると、未婚化と晩婚化と所得の格差、特に所得の格差が一番大きいと思っている中で、この所得の格差をいかに解消していくかということが非常に大事なことだと思っております。そうした中で、それぞれ地域の皆様、団体の皆様と話をしていく中で、例えば短時間正社員の問題について、どんどんこれを広げていかなければいけない、これは女性の活躍促進にも繋がっていきますので、そうしたものも取り組んでいかなければいけないと感じているところでもありますし、また、子どもを産む・産まないの根本となりますプレコンセプションケアのところ、必要な時期に必要な人に必要な情報を届けていくことをやっていく必要があると感じているところであります。それから、所得の関係で申し上げますと働く場があることが一番大事でありますので、そうした中で、先ほどお話がありましたように色々な企業を誘致して働く場があるということが非常に大事なところであると思うのですが、一方で先ほど安城市さんからも女性の働きやすい魅力的な、という話もありましたが、職種の部分と合わせて意識の部分も大事なところではないかなと思います。特に女性ですが。それは役割分担意識のものも含めて、女性にとって本当に働きやすいというところをしっかりとやっていくということも大事な視点だと感じています。それから高齢化の観点でいうと、これから認知症の関係はもつともっと大きな問題になってくると思いますので、高齢化が進んでいくということと合わせて、長寿化が進んでいくということでありますので、いままで以上に認知症の関係は非常に大事な大変な問題になってくると感じておりますので、そうしたこともワーキンググループでいただいたことに関連することかとも思いますので、また皆様方から色々情報もいただきながら、私たちも連携取らせていただきながら、しっかりと取り組みさせていただきたいと思います。

<飛島村>

飛島村長の加藤でございます。よろしくお願いいたします。

飛島村の現状を少しお話させていただきます。飛島村は、ほぼ全村が市街化調整区域ということで、工業地帯を除いて、ほぼ全域が市街化調整区域という状況にあります。ですから、農地転用が非常に難しいという状況。そして、飛島村で生まれて、飛島村で育って、飛島村に住みたいんだけど、飛島村に住むことができない、というもどかしい状況にあります。市街化調整区域の制約によりまして、民間の住宅開発も進んでいません、できません。ということで、若者世代が村内に住みたくても居を構えることができないので、近隣の市町で居住する状況が続いているわけでございます。飛島村の人口は現状維持という状況ですけれども、中身は外国人の人口が増えており、1割が外国人ということになっております。ほとんどが技能実習生で単身で日本に来ておりますので、子どもも生まれません。ですので、子どもの数が激減しておりまして、保育園や学校の維持が困難になっているという状況にあります。市街化調整区域の一部を住宅用地限定ということで、是非、緩和していただけたらありがたいと思っておる状況

でございます。

＜阿久比町＞

阿久比町長の田中です。よろしくお願いします。

阿久比町におきましては、これまで民間の住宅開発等がありまして、人口が増えてきた町ではあったんですけど、ここに来て住宅の供給も止まりまして、人口も減少傾向になっております。先ほどから話がありますように、阿久比町は町の8割が市街化調整区域となっております。町の中心の阿久比駅、役場周辺も市街化調整区域であり、中心市街地の形成が難しいということもあります。コンパクトシティを目指す中で、中心市街地での市街化調整区域の規制緩和をお願いしたいと思いますし、住むところと働くところが大切かと思います。阿久比町は農業者が多いものですから、農業における支援、また大企業を誘致するのはなかなか難しいものですから、小規模事業者への支援をいただいて、そこで生活、暮らしていけるという環境が人口維持には必要ではないかなと思っておりますので、今後ともよろしくお願いしたいと思います。

＜幸田町＞

お世話になります。幸田町長です。

幸田町は西三河9市1町ということで、一つの町でありますけども、孤立しているわけではなくて、おかげを持ちまして、岡崎市さん、西尾市さん、蒲郡市さんとの境界をもっているのですが、それぞれの境界部におきまして開発構想案だとか、開発が進んでいるということで、人口を呼び込む、それによって交流人口や定住化が促進されるのではないかなと思っております。現在、人口が42,000人を少しずつ減りだしておりますが、今後の区画整理事業により、まだまだ人口は維持できるのではないかなと思っております。具体的に、岡崎市さんと接しております幸田町から見た北東部ですけども、先ほど市長さんからお話ありましたようにアウトレット整備事業等々があり、国道1号線、そして新東名に向けた道路整備、また名古屋三河道路がどのような線形で来るかによって幸田町の発展に資するかということもありますので、道路整備、そして森林サービス産業というものをテーマにしながら森づくりをしていきたいと思っております。西尾市さんの方は西部でありますけど、おかげを持ちまして、企業庁さんによる工業団地が整備できまして、また道の駅、岡ノ山と筆柿の里、それぞれ上り下りで重要な道の駅なので、重点の道の駅にしながら交流人口を呼び込むようなことができるのではないかなと思っております。それから蒲郡市さんとは、海に見える街ということでロケツーリズム事業をしながら、観光だとか、防災に向けた取組を現在、両市町で進めています。それから愛知工科大学さんのように地方の大学があるので、これを活性化することによって幸田町はまだまだ隣の市町さんとの広域的な連携事業を推進することによって人口が維持できるのではないかなと思っております。

＜蒲郡市＞

蒲郡市の鈴木でございます。オブザーバーとして参加させていただいております。ありがとうございます。

3つのテーマにつきまして発言させていただきます。まず、地域交通確保でございますが、先ほど美浜町長からも触れていただきました。名鉄西尾蒲郡線の存続でございます。西尾市様と名古屋鉄道様、また愛知県様、中部運輸局様と協議を重ねまして、みなし上下分離方式によって令和9年4月から15年間の運行の方針が決定いたしました。この幹線軸の交通の維持が、重要でありまして、中でも鉄道は大変大きな存在でございます。少子高齢化や免許返納など、移動に対するハードルが上がってしまうことや児童・学生の通学による未来の選択肢の幅など住生活環境に大きく関わってくるものであります。この点からも運行存続の方針となったことは大変重要であります。一方で自治体の負担が増えてくることもあります。ただ交通空白地を解消するだけではなくて、やはり乗って、使っていただくことが重要であると考えております。あくまで主役は公共交通を使う市民でありまして、その視点に立って考えていく必要があると考えております。次に農林水産振興でございます。本市の特産品であります蒲郡みかんについて、JA蒲郡市が実施する蒲郡みかん塾への負担金の支出を行っております。担い手不足はどこも同じ問題でございます。関係機関によるサポートが必要になってくると考えております。また水産業は、IT技術を活用したカキ養殖がですね、本市が掲げておりますサーキュラーシティ蒲郡のアクションプランに基づきまして、循環型産業の構築、そして教育機関との連携、これによりまして次世代の漁業従事者育成を目指して取組を進めているところであります。最後に空き家活用についてでございます。本市においても空き家バンクによる利活用は行ってまいりました。しかしながら、空き家を希望している方と自治体とのマッチング、情報に辿り着けないという課題がございます。今回の資料にあります、あいち空き家活用広域マッチングプラットフォームの取組によりまして、こういった課題が解決されまして、これまで我々の情報に辿り着けなかった希望者と繋がる可能性が拡大していくことは大変ありがたいことと考えております。このような人口減少社会に対しまして、個々のそれぞれの自治体の特徴を生かした取組によって解決策を見出していくことはもちろんでございますが、愛知県、そして日本全体の問題として広域的に取り組んでいくことが大変重要であると考えております。新しく地域産業振興ワーキンググループができるとお聞きしました。このワーキンググループにも積極的に参加させていただきながら、各課題について取り組んでまいりたいと考えております。

＜知立市＞

知立市でございます。本日は貴重な意見交換の場に参加させていただき、誠にありがとうございます。

先ほどご報告ありましたワーキンググループにつきましても、市政運営の参考とさせ

ていただいておりますので、大変ありがたく思っております。当市では、今年度、第7次の総合計画の策定を行いました。その中で市民のまちへ愛着や誇りといったシビックプライドの部分がまだまだ低いということが分かりました。市外からの転入促進も大事なのですが、今後は市民への多様な情報発信などインナープロモーションを強化することによって、シビックプライドの醸成を図っていきたいと考えております。シビックプライドの高まりは、地域活動に参加してくださる市民の参加にも繋がっていくと考えております。今後、人口がどのように推移するにしても、市民によるまちの活気、活力を高めていくことは重要だと考えております。引き続きこの会議での議論も参考に進めていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<高浜市>

高浜市の吉岡でございます。

ワーキンググループの皆様にはそれぞれ課題を整理していただき、ありがとうございます。わたしどもはオブザーバーで参加させていただいております。令和2年度くらいまでは人口増加していたのですが、令和3年度くらいから横ばいになっており、その要因として、日本人は減少し、外国人の方は増えているということで、かろうじて横ばいを保っているという状況なものですから、危機的な時期にあるということで、参加させていただきました。令和6年に入ってから、極端に日本人の減少が進み、外国籍の方の人口でカバーできず、総人口が落ちてきている状況でございます。総人口が落ちていの中で、外国籍の方が増えているということは、外国籍の方の比率が9%くらいだったのが、いま9.4%になっています。日本の将来の姿を先取りしているような状況の中で、外国籍のお住まいになっている方々と日本人の方としっかり交流を深めながら地域の暮らしを良くしていかないといけないというところも重要な課題で、イベントを通じてそれぞれの国の風土とか理解が進むような場面を作っていこうということで、(NPO法人の)「むすびえ」と一緒になって居場所づくりをやりながら、外国の方にもご参加いただければということでやっております。また、出生数は激減をしております。とりわけ日本人の出生率はすごく下がっておりまして、これをどうカバーしていくかというのは難しいところではありますが、一般不妊治療に加えて、生殖補助医療もですね、新年度から補助していこうと。それで極端にお子さんが生まれるようになるのかということそうではないかもしれませんが、望んでおられる方々に少しでも支援をしていければということを取り組み始めております。ワーキンググループの地域交通の問題でも、そもそも高浜市は利便性は非常に高く、南北5kmくらいに3つ駅があるんですね。それで東西も4kmくらいしかないものですから、それでも奥にお住まいの方は若干のご不便を感じているということで、そこは今までの交通のあり方を見直して、デマンド交通に切り替えていくということで、10月から実証運行しているところでございます。今年、これをずっと運行した上で、本格的な運行に進めていきたいと思っております。また、農林水産業のワーキンググループでも話がありましたが、そもそも農業の就業者は非常に低くて1%台な

んですね。そういう中で、営農さんも減ってきて、次の代に繋げていくためには、法人化をしていかないといけないかなと、そういう取組もしっかり進めていかないといけないと思っております。また、空き家の問題については、まだ大きな問題にはなっていませんが、先ほどお話があったように将来の問題には大いに関係してくるだろうと。と申しますのは、やはり単身者が増えてきているということです。特に高齢者の単身者が増えてこればですね、先ほどアンケートで調査されたという話がありましたが、そういうことも必要かなと、将来どうしていくのかということの調査も進めていく必要があると感じた次第でございます。今日はありがとうございました。

<蟹江町>

蟹江町でございます。今日はオブザーバーとして参加させていただきましたことを感謝申し上げたいと思います。また、ワーキンググループの日頃の活動に大変感謝しております。

蟹江町からは2つお話をしたいと思います。まずは、いま吉岡市長さんもお話したように人口増減の問題でありまして、蟹江町は今年で町制136年目ということで大変古い町であります。人口は微増な状況、正確には外国の方が近年入ってみえて、実際マンパワーとして活躍いただいておりますし、住民基本台帳にも載ってしっかりと税金も納めていただいている方ばかりでありますけども、第5次総合計画のちょうど折り返し地点であります。最終目標は38,000人、いま3月の時点で36,700人、このうち外国人が2,100人くらいですから、5～6%くらいです。蟹江町の会社、それから近隣の飛島村さん、弥富市さん、愛西市さんの方に働きにでていただいております。その中で、逆に日本人の出生率が低いということがありまして、徐々に減少の道を辿っているのではないかなと、そんな問題のある町であります。特にこれから考えていかなければいけないのは、蟹江町は11.1km²で、南北4km、東西3km弱という長細い町ですが、市街化区域が大体40%強、市街化調整区域と農業振興地域が25%くらい、あとは河川・池・沼、河川は6本流れており、それが20～22%くらい。そんな中で、公共交通は早くから福祉バスという形であったわけですが、わたしが町長に就任させていただいた後には公共交通の必要性が問われていましたので、2つの路線で巡回バスをいま無料で回しております。これは蟹江町の方だけではなくて、蟹江町に働きに来てみえる方、近隣の方も無料で乗っていただけます。また、日曜日は全てのコースを回るように組んでありますが、ここへ来て、特に買い物難民だとか、病院難民だとか、高齢者の方の公共交通機関に対する要望が強くなってまいりました。そうなりますと、公的な負担がこれから増えていくのではないかと考えております。それから空き家についてであります。数年前から不動産屋さんと協力しまして、空き家マイスターの資格を持った方に相談できるようなラインを作っておりますし、空き家バンクの活用で住民の皆さんに情報をお届けしていることもあります。特定空き家もありますが、それほど大した数ではなくて、危険な空き家がたくさんあるわけではございませんが、実際既存宅地に古い家がある

のも事実であります。色々な条件がありまして、家屋調査をした時に、できれば壊していただければというお話もするのですが、それぞれの事情があるということで、いまは粘り強くお話をしているというのが現状であります。農業については、先ほど言いましたように市街化が40%ちょっとで、農業に従事している方が地域の弥富市さん、飛島村さん、愛西市さんと比べると微少であります。ですから、なかなか次のステップも難しいわけではありますが、政令指定都市の名古屋市のすぐ隣の町、しかもJR、私鉄含めて2本の在来線が走っております。また、駅も3つありまして、人口増のひとつの革新的な行動としましては、市街化調整区域を市街化に編入する区画整理事業をいま現在も行っています。しかし、減歩とか清算金の問題で非常に組合施行では時間がかかるということで、これも市街化を増やして人を入れるという強力な施策にはひょっとしたらこの先なり得ないのかなあ、なかなか難しいことであります。また、合計特殊出生率も日本の平均よりは高い1.45くらいです。このことについても、妊娠から出産、子育てまでしっかり一貫したシステムをつくるように、課を新たに編成いたしまして、子ども家庭課、子ども福祉課ということで、子育てにも少子化にも力を入れていきたいと思っています。いずれにしても人口減の問題は、我々喫緊の課題でございます。皆様方のお知恵をお借りしながら、県の知恵をお借りしながら、しっかりと前向きに進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

<知事>

はい。ありがとうございました。

今日は貴重な意見をいただきましてありがとうございました。できるだけ多くの皆様にご発言いただければということでお願いさせていただきました。ありがとうございました。以上で議事は終了しましたので、これで第2回の愛知県・市町村人口問題対策検討会議は以上とさせていただきます。なお、新年度も、農林水産業、地域交通、空き家の活用といった3つのワーキンググループは引き続き継続して、また対策も強化、深化していきたいと思っております。そして、新たに、地域産業の振興というテーマで、地元企業の後継者だとか、人手不足、人材不足、また事業承継といったことと、雇用を生む企業の誘致ということで、本当に大事なことです。ので付け加えまして、4つのワーキンググループで皆様とともにしっかりと議論しながら、課題を深掘りして対策を講じていきたい。国の方の事業も色々メニューがありますので、できるだけそういったものも活用しながら、それぞれ地域によって少しずつ課題も違ってくると思いますが、より効果的なものやっけていながら、少しでも実績を上げていければと思っておりますので、新年度も何卒よろしくお願い申し上げます。